

医療機器産業研究所 スナップショット No.21 「日本の医療機器産業の将来に向けて」

一般社団法人日本医療機器テクノロジー協会 (MT Japan)
専務理事 三澤 裕

医療機器産業の持続成長のために

本年4月に公表された平成27年(2015年)度薬事工業生産動態統計によると、我が国の医療機器生産額は、1.9兆円で前年比2.2%減であった。一方、輸出は6,226億円と前年比8.8%増であり、2011年に対し約1.3倍に拡大している。さらに、2015年度の上場22社のIRデータによると、海外売上比率は平均65%で、売上合計は1.8兆円と2011年の約2倍になっている。これらのデータは、我が国の医療機器産業がグローバル化しつつ成長していることを示している。しかし売上規模では、日本の医療機器の世界シェアは10%以下であり、大手のオリンパスとテルモでも世界20位程度である。成長を続けている世界の医療機器市場の中で、我が国の医療機器産業が成長していくためにはプレゼンスの向上が不可欠である。

今後、世界的な高齢化に伴う医療費抑制が潮流となり、製品価格へのプレッシャーの高まりや、費用対効果の視点での医療機器への厳しい評価が行われるといった懸念がある。加えて医療の質や安全の追求から、諸外国の規制も強化されてくるであろう。これらの環境変化に対応しつつ、産業を成長させるためには、将来の方向性を明示した戦略の策定と異分野産業などとのエコシステムの構築による国際競争力の強化が重要と考える。

将来戦略の策定の必要性

将来戦略の策定は、事業者にとって必須事項である。実際多くの医療機器企業では、医療動向を踏まえて自社製品のロードマップを描き、M&Aによる事業基盤の強化や新技術獲得による競争力の強化そして、生産のグローバル化による価格競争力の強化等といった戦略を立案実行している。一方、産業拡大の新たな担い手として期待されている異分野企業では、医療機器の将来戦略を描くことが難しい。このため自己の保有技術をベースとした目前の開発に陥りやすく、大きな成功に結び付く確率は低いといえる。

そこで将来戦略立案のために参考にしたいのが、2010年に経済産業省が公表した医療機器技術戦略マップである。これは産官学の有識者が医療の将来像も踏まえながら、2030年までの様々な医療機器の開発の方向性を示したものである。現在でも既存、新規参入を問わず各企業の将来戦略の策定に活用できるものとする。ただ、公表から7年が経過していることから、医療環境の変化やロボット、AIといった新たな技術も考慮して見直してはどうか考えている。

日本のプレゼンスの低さは、米国の後塵を拝している研究開発に起因するところが大きい。将来を予測し、先手を打つ

ことは不可能ではない。技術戦略マップなどを活用して、将来戦略を策定し世界に先駆けた研究開発を推進すべきである。

エコシステム構築への取り組み

米国がイノベティブな医療機器を生み出している理由の一つに、エコシステムの存在がある。アカデミアや医師等のアイデアは、ベンチャー企業によって開発され、インキュベーターや医師等の技術的、事業的支援そして、ベンチャーキャピタル等の資金支援を受け、その大半は大手・中堅の医療機器企業によるM&Aによって事業化される。医療機器企業にとっては、エコシステムを事業開発部門の一つとして活用することで開発リスクと時間、リソースの軽減になる。

一方日本では、アカデミアや医師等のアイデアに基づく研究開発から事業化は自前主義によるものが多く、資金やリソースの限界や開発リスク回避のために、新規開発より確実性のある改良改善に重きが置かれている。

日本発のイノベーションがなければ、プレゼンス向上は望めない。昨年7月に厚生労働省が医療系ベンチャーの振興を目指す報告書を公表した。今後ベンチャーが育ち、米国のようなエコシステムが構築され、革新的医療機器が創出されることが期待される。

しかし、米国のようなシステムティックなエコシステムを構築するには時間を要するであろう。国内産業を俯瞰すると、精密機械や化学など、基盤要素技術を保有し開発リソースも有する産業で医療機器への関心が高く、ユニークな医療機器開発を目指している企業もある。国際競争力強化に向けて新しい技術を取り入れることは必須であり、異分野産業との連携強化は重要である。互いの得意分野を補完することも必要であることから、開発から事業化のプロセスの融合を目指す共創型エコシステムといったものを構築することも一つの方法ではないだろうか。

最後に

2013年6月の日本再興戦略で、医療健康市場の拡大目標が示され5年になる。さまざまな施策により、国内市場や産業は今後も成長が予測されている。しかし、長期的には医療費の抑制や人口の減少などの影響を受けることが予想される。今後の医療機器産業にとって海外展開は重要であり、我が国のプレゼンスを高めることは必須課題である。国際競争力のある医療機器を迅速に生み出せるように産業の体質を変えていかねばならない。試行錯誤は不可欠である。一步を踏み出すためにも、将来戦略の策定とエコシステムの構築に取り組むことが重要である。